



TITLE:

雑報

AUTHOR(S):

---

CITATION:

雑報. 地球 1932, 17(6): 474-480

ISSUE DATE:

1932-06-01

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/184044>

RIGHT:

## 雜報

## ○但馬美方郡鬼塚村附近の第三紀化石產地

但馬美方郡鬼塚村（鬼塚村）大野部落より葛畑（葛畑）部落に至る約二軒の縣道切割に添ひては基底礫岩、褐色砂岩、灰色細砂岩より成る地層が向斜層を作りて露出し、礫岩と砂岩の互層、又は灰色細砂岩層中には介化石を出す。筆者は本年三月京大工學部學生と共に旅行中この地を踏査したが急ぎの旅行で、十分の調査は不可能であつた。

大野、葛畑間には約四四〇米の大野峠があつて、化石はこの峠及び、その南北の斜面に多く、峠の頂上から北へ五〇〇米、迂曲せる自動車道の路傍には砂岩と礫岩との互層があつて、走向北三五度東、傾斜東南へ約六―八度、二つの層位に二枚介を主とする介層がある。保存は左程悪くはないが、岩石が堅硬であるために採集に骨が折れる。大野峠の頂上及び南斜面には灰色細砂岩中に砂岩脈が生ぜる部があり、細砂岩中からはモールドをなせるベネリカルヂア、テリナ、ペノス（？）等の化石を容易に採集し得る。これ等の含化石層は南方に廣く分布する蛇紋岩を不整合に被覆し、更に葛畑の東約四軒、養父郡關宮村（養父郡關宮村）八井谷部落の北に露出し、曾て二枚介を多く産し、植物化石も出たといふ。現今、八井谷部落から北へ美方郡鬼塚村福岡部落に通ずる國道（八井谷峠五〇〇米）の改

## ○明延鑛山の錫

但馬明延鑛山（明延鑛山）は本邦第一の錫產地として知られ、昭和五年全國電氣錫八八五噸中八割六分は明延産である。同山の錫はカシテライトとして存在し、明治四十一年その存在が認められたものである。探掘した鑛石は全部明延選鑛場で人力によつて選鑛し、後之を四哩の隧道によつて神兒畑に送つて浮游選鑛と重力選鑛とで鑛石の品位を高めてゐる。明延から送る全鑛石は一ヶ月六千噸で品位は錫二%、銅一・一%のものであるが、神兒畑で錫精鑛五〇%、銅精鑛二一―二二%に高め、銅は直島に送り、錫は生野に送つて精鍊する。更に大阪で電氣錫となし錫九九%の純粹なるものとなして市場に出される。

明延鑛山では更に規模を擴大し、近々一ヶ月一萬噸の鑛量を採掘するやうにする計畫があり、鑛石中には錫、銅の外に五%以上のタンゲステンがあり、小量の磁鐵鑛があるから、近くこれ等を十分完全に選鑛して、利用するに至らば、更に大規模なる鑛山となるべく、山又山の但馬に於て、濫漈たる

生氣を見せて居る。(上治)

## ○但馬養父郡關宮村のクローム鐵鑛

但馬養父郡

關の宮村の西端、縣道(自動車を通ず)附近の蛇紋岩中にはレンズ狀をなして、クローム鑛が存在する。本年三月京大工學部學生が調査した處によると、この附近に小規模な探掘坑十餘箇あり、高位置にあるものは概して黃綠色の蛇紋岩中に黑色の粒狀をなしたクローム鑛があり、低位置にあるものは全くクローム鑛となるものが多いかの如くである。未だ調査せずして處々を探掘して居る。

蛇紋岩中を踏査すると石英閃綠岩質、閃綠岩質、橄欖岩質等諸種の岩相が觀察され、岩漿分化の現象を窺ふに足るべくクローム鑛床も亦岩漿分化によりて生成せるものなるべく、探掘上にもこの考へ方を應用することが必要である。(上治)

## ○但馬のニツケル鑛床の現況

但馬養父郡大屋村夏

梅附近の蛇紋岩中に、ニツケル鑛床の存在することは約三〇年前より知られて居る。近來探掘の結果、露頭は東西約一八〇〇米に亘り、拾餘箇の試掘坑を開坑して有望視されて居る。それ等の中、夏梅部落の西北、大屋川に面する大切坑は昭和六年より開坑し、北に向つて凡そ約一〇〇米掘進し、坑口より七〇米附近から東西に横坑を約五〇米許り掘鑿、更に南北に小坑道を穿ちて探掘し、近く探掘に着手する豫定であるといふ。

坑口より四〇米の間は中生紀頁岩よりなりそれより奥は頁

岩を貫きて進入せる蛇紋岩である。頁岩に接近する附近の蛇紋岩中にはゲルスドルファイトの形を以てニツケルを含有しニツコライトは稀である。品位は四％であるといふ。この富鐵部は巾十數米で次にピロータイトが産し、これより奥は○・七—○・八％位の品位となる。更に奥に進むと巾二—五米の玢岩脈があり、これを過ぎると品位は○・三％内外に下る本年三月中旬にはこの奥に玄武岩が岩脈狀をなして進入する部分まで掘進して居た。

坑内から閃鋅鑛・黃銅鑛・磁鐵鑛・黃鐵鑛・方解石等の鑛物が出る。藤田組で試掘した當時の舊坑は現今の大切坑の位置より約二〇米高き處にある。ニツケルの含有量は高位置にある舊坑よりも低位置にある新坑(大切坑)の方が多い。夏梅の西微南、加俣<sup>かが</sup>の地内には粘土化せる蛇紋岩が多くて何れも少量のニツケルを含有する。十分探掘せばこの附近にも有望なる鑛床を發見し得るものと思はれる。兔に角、夏梅、加俣附近は現今に於ける日本唯一のニツケル鑛床地帯として囑望されて居る。(上治)

## ○日本農家の副業

一、白兔 日本在來の白兔でメリケン種又はイタリアン種と稱せられる白色の兔の毛皮は年々百六十萬枚、百五十萬圓を輸出してゐる、主として米國に向けられる。但し北米では年に一億三十萬枚を消費するので其九割八分を外國から輸入してゐるから日本品の輸出の見込は多い、ことに日本品は世界

で最もよい、自鬼にかぎつて日本品一枚一圓六十錢フランス物が一圓、支那の物が八十錢といふ位の相場である、今日までの経験では仲買が悪いので、農家は不利を生じてゐる、たとへば昨年新潟縣である村で二千頭から鬼を飼つて生きたまゝ、一番大いのを三十五錢にうった、それで損をしたといふが實際問屋の買値は一圓四五十錢の相場であつたのに、さうした悪い仲買に出會つたといふことである。

二、寒天 これも年に二百二十萬斤金高で四百萬圓の輸出品である、ドイツ、合衆國蘭領印度佛國に仕向ける、昔は支那へ送くつたが目下は少い、外國では菓子原料になり清涼飲料料となり、ドイツではビールの清澄劑に使ひ、フランスでは絹織物の糊に用ひる、寒天は實に日本の特産であつて外國では支那に少しく出来るだけである、この寒天は農村ことに寒い山村に於て獎勵すべき副業の一であらう。

三、椎茸 この頃は外國で支那料理が流行するにつれて需用が増加し、西洋料理にさへつかいだしたから見込が多い。ことに乾椎茸にウイタミンドが多い。ウイタミンドは體便の藥である、支那に極めて僅に出来るだけで世界で、椎茸は日本の特産である。

四、金魚 これは近頃アメリカに行く輸出品であつて二十五萬圓、二、三百萬尾を輸出する、アパート式に出来た家に居て庭も何もない没趣味のアメリカの家庭では大に珍重されるこの金魚も日本の特産であつて、アメリカではとても日本の

やうに立派なものが出来ないのである。

### ○噫乎河村幹雄先生

理學士 松本唯一

昭和六年十二月二十七日、九州帝國大學教授理學博士河村幹雄先生溘焉として逝かる。悼しいかな。我等日夕親しく先生に接し、その撫育の下に今日あるを得たりしもの哀傷焉んぞ勝へむ。然れども吾等茲に先生の喪に遭ひて悲泣する所以のもの竟に獨り私に於て忍びざるものあるを以ての故に非ず元より玲瓏寔に寶玉の如き人格あるを失ひての故なり。眞に學術の何たるかを解し眞理を好愛するの士を失ひての故なり然れども亦同時に目今國歩艱難先生に待つもの愈々多からむとするの秋に際し「原理日本」に即する又なき有爲の教育家とそが不朽の御事業とを永久に失ひたるものなるを思ふ時、熱淚新に滂沱として止め難きを覺ゆ。

先生、明治十九年を以て北海道に生れらる。白皚々の雪野原と膚を劈く朔風とは先生が幼時における身心鍛鍊の好箇の道場たりしなり。長じて第一高等學校及び東京帝國大學理科大學に學び明治四十四年七月地質學科を卒業せらる。夙に穎脫群を擢き、在學中常に首席を占め特待生に擧げられ、卒業に際しては銀時計恩賜の榮を擔はれぬ。直ちに職を九州帝國大學に奉じ、拮据精勵二十餘年以て今日に至る。大正九年には衆望の推す所、三十五歳の年少を以て同大學工學部長の要職に就かれし外、或は評議員或は學生監として同大學の樞機に參劃せられざるなし。官位亦進められて正四位勳三等た

り。

先生、天資叡敏、學は古今を貫き識は東西を盡ふ。その身に奉ずる甚だ薄く、身を守る極めて謹直、敬虔以て君父に仕へ、その後學を誘掖する實に嚴父にして慈母を兼ね。此を以てその膝下に馳せ參じて教を乞ふ者日夜踵を接す。その明德や寔に太陽に儔ふべく人格あくまで高潔、而して識見英邁、眞に國士の風格あり。加ふるに烈火の如き熱情と鋼鐵の如き意志とを以てす。嘗て卒業計畫たる淺間火山の踏査に際し私かにその野帳の第一頁に誌して曰く “Work out a result that will astonish the scholars and will be received with satisfaction by Prof. Kotô, or Die!”。以てその學術に對する眞學の程を察すべし。先生の學術論文亦選を異にせるものある。蓋し故なきに非ざるなり。その世に問ひしもの、量に於て必ずしも多しといふべからざれども然も先生が篋底に藏し胸臆に秘して終に發表せざりしものに比すれば實に十が一にも足らざるべく、況んや今後先生の獨創的頭腦を以てして驥足を展べしめば思ふにその業績測り知るべからざるものありしならむに於てをや。

先生、その晩年に於ては寧ろ稍學術界を遠ざかりしが如しと雖も教育、思想の方面に對する熱意は愈々益々その度を高め、毎に國事を談じて聲淚共に下らずむばあらず。終に身を以て思想國難、教育國難の事に當らむとせらるゝに至れり。病弱の御身を以てして東奔西走、或は教育行脚の談論に喉を

破り或は思想檢討の寄稿に病を忘れて日もこれ足らず、憂國の至誠の迷る所、先には「國防の將來」或は「愛兒の教育と其學校の選擇」となり、後には「日米不戰論」となり、終に意を決して家塾を門内に開き、有爲の青年子弟を養ひ、以て剛健質實、眞に國家を泰山の安きに置くの人材を育成せむことを期せられたりしに皇天何ぞ無情なる。中道にして天柱摧けて復立たず。嗟乎。

先生、不治の痼疾を得て然も堅く醫を刎け、病苦を克服すること茲に十有五年、愈々その死の數刻に迫るを知るや、親族、知己、門弟、塾生等を交々病室に招じ、從容端座して嚴然として然も語氣いと盛懇、結ぶに「何卒天子様に忠義を盡す人々を育てゝ下さい」を以てせらる。何ぞその死の壯嚴なる。古の仁人志士と雖も亦能く此くの如きを得むや。天もし先生に尙數年の齡を假さば昭和の維新あらむに際してや、必ずや九州の一角より風雲を捲き起しゝものありしならむに噫、また何をかいばむ。

嗚呼、先生、曠世の偉器を抱き、渾身の勇猛心を鼓して祖國日本を永劫に生かしむべく新日本建設の大理想に向つて邁進せられ、創業未だ半ばならざるに忽焉として遽逝せらる。

先生の遺懺や眞に思ふべし。然りと雖も先生が残し給ひし幾百の遺弟は或は學術界に又實業界に或は思想界に又教育界に或は政治界に將又帝國々軍に先生の御心を心として微力を君國に効すの時あらむか。先生また以て瞑せらるべきか。願は

くは照鑑を垂れ給へ。吾等眷愛の恩澤を受けて感激に堪へず  
燕辭を聯ねて竟に先生の天を傳ふるに由なし。恭しく弔意を

表し奉る。

○享保以後の地理關係出版書目

大阪(二)

書名

作者

板元

出願

大日本廿二社道中記 一册	猪飼津嘉久 (北久太郎町一丁目)	丹波屋理兵衛 (南久寶寺町五丁目)	寛保二年八月
並に廻り方繪圖一枚		本屋伊兵衛、大津屋嘉兵衛	寛保二年十二月
近江國繪圖 折本 一册	山下重政(河州大縣郡大縣村)	吉文字屋市兵衛(淨覺町)	寛保三年十二月
大増補日本道中行程記 一册 以前 「日本道中行程記」と題せしを改題願出	高田清兵衛(江戸堀三丁目)	田原屋平兵衛(順慶町一丁目)	延享四年正月
難波丸 五册 彫替願出	橋 大助(富田町)	堺屋清兵衛(江戸堀三丁目)	寛延元年十月
西國筋道中記 一册	藤屋彌兵衛(高麗橋一丁目)	吉文字屋市兵衛(淨覺寺町)	寛延元年閏十月
南都名所圖 一卷	山下重政(河州)	泉屋喜兵衛(南本町一丁目上半)	寛延元年十一月
大日本繪圖 折本一册 再版願出	橋守國(岩田町)	村上伊兵衛(安堂寺町五丁目)	寛延二年二月
播磨國細見大繪圖 一册	赤尾郡守(越中不動町)	秋田屋市兵衛(安堂寺町五丁目)	寛延二年三月
有馬勝景圖 一册	山田季朴(播州三田)	富士屋長兵衛(高麗橋一丁目)	寛延二年三月
廿四輩廻詣圖 折本 一册	菅榮子	本屋彌兵衛(費久南寺町五丁目)	寛延三年四月十四日
明人考訂帝都圖 一枚	鳥飼醉雅(木挽中ノ丁)	吉文字屋市兵衛(木挽町中ノ丁)	寛延三年八月
伊勢道中行程記 一册	鳥飼醉雅(木挽中ノ丁)	吉文字屋市兵衛	寛延四年正月
増補海陸行程細見記 一册	関性萬里(本町上三丁)	吉文字屋市兵衛	寛延四年正月
大和名所獨旅 一册	林 謙齋(天王寺村)	絲屋市兵衛(伏見兩替町四丁目)	寛延四年正月
弘法大師廻拜記 一册	鳴尾兵右衛門 伊丹屋新七、 若狭屋三右衛門	河内屋茂兵衛	寶曆四年二月
河内國細見圖 折本 一册	安福寺(美濃國)	豐田屋伊右衛門、田原屋平兵衛	寶曆四年九月
木曾道中勝景行程記 折本 一册		吉文字屋市兵衛	寶曆四年九月
二十四輩道中記 一册		富士屋長兵衛(高麗橋一丁目)	寶曆五年四月

大坂町鑑 一冊

浪花往古圖 折本 一冊

但州湯島道中獨案内 一冊

江戸道中勝景行程記 一冊

新增日本道中行程記大全

伊勢國大繪圖 一枚

東國名勝志 五冊

播州平野大繪圖 一冊

山城名所記 一冊

以前「京土産」と題せしを改題申出

新撰伊勢道中細見記 一冊

四國編禮圖 一枚

諸國順拜廿五ヶ所

元祖關光大師御遺跡詠歌

諸國順拜廿五ヶ所道中記 一冊

淨土元祖御遺跡巡拜案内記 一冊

惠成大師御遺跡巡拜案内記 一冊

〔附記〕此の書は同年同月に出版したる瀬戸物屋傳兵衛方は縁起入の大冊に仕立てること相成らず、本屋又兵衛方は大冊として板行し道中記ばかりの小冊にして賣

弘めること相成らずと申渡され、双方得心の上にて板行することゝなれり。

御光大師廿五箇所案内記

以前「淨土元祖御遺跡巡拜案内記」と題せしを改題願出

大日本道中行程細見圖 一冊

吉文字屋市兵衛(木挽町中之町)右同人

吉文字屋市兵衛(木挽町中之町)右同人

吉文字屋市兵衛(木挽町中之町)右同人

吉文字屋市兵衛(木挽町中之町)右同人

吉文字屋市兵衛(木挽町中之町)右同人

吉文字屋市兵衛(木挽町中之町)右同人

吉文字屋市兵衛(木挽町中之町)右同人

吉文字屋市兵衛(木挽町中之町)右同人

吉文字屋市兵衛(木挽町中之町)右同人

吉文字屋市兵衛(木挽町中之町)右同人

小川市兵衛(安治川上一丁目)

月岡丹下

板屋清右衛門(但馬國湯島)

若狭屋三右衛門(順慶町五丁目)

吉文字屋市兵衛(木挽町中之町)右同人

天野重次郎(京都)

月岡丹下(齊藤町)

日野長久

柏原屋左兵衛

右板元よりの申出でを本屋行

司にて開届け板行

本屋七郎兵衛(作州津山)

細田周英(但馬)

せと物屋傳兵衛(天王寺光道町)

右板元よりの申出でを本屋行司にて開届け板行

助松屋道喜(新天満町)

岸譽(泉州堺)

本屋又兵衛(綿袋町)

本屋又兵衛(綿袋町)

本屋又兵衛(綿袋町)

本屋又兵衛(綿袋町)

本屋又兵衛(綿袋町)

本屋又兵衛(綿袋町)

本屋又兵衛(綿袋町)

本屋又兵衛(綿袋町)

本屋又兵衛(綿袋町)

本屋又兵衛(綿袋町)

本屋又兵衛(綿袋町)

本屋又兵衛(綿袋町)

本屋又兵衛(綿袋町)

本屋又兵衛(綿袋町)

本屋又兵衛(綿袋町)

柏原屋清右衛門(順慶町五丁目)

本屋伊兵衛(安堂寺町五丁目)

藤屋彌兵衛(高麗橋一丁目)

吉文字屋市兵衛

本屋清左衛門

吉文字屋市兵衛(木挽町中之町)

柏原屋佐兵衛(傳馬町)

寶曆五年五月

寶曆六年六月

寶曆七年二月

寶曆九年五月

寶曆九年五月

寶曆九年十一月

寶曆十一年三月

寶曆十三年二月

寶曆十三年六月

寶曆十三年八月

寶曆十四年五月

寶曆十四年六月

明和二年九月

明和二年九月

明和二年九月

明和二年九月

明和二年九月

明和二年九月

明和二年九月

明和二年九月

明和二年九月

明和二年九月

明和二年九月

明和二年九月

明和二年九月

書名

作者

板元

出願

新増補日本道中行程記大成 一冊

吉文字屋市兵衛(木挽町中之町)右同人

明和六年八月十六日

増補日本汐路之記 一冊

高田清之丞(初瀬町)

藤屋彌兵衛(高麗橋一丁目)

明和七年五月十三日

住吉細見繪圖 一冊

竹原春朝齋(伏見屋四郎兵衛町)升屋彦太郎(木挽町中之町)

明和八年七月七日

播磨めぐり 一冊

田原宗本

田原屋平兵衛(順慶町一丁目)

明和九年十一月九日

兩面大阪繪圖 一枚摺

富士屋長兵衛(高麗橋一丁目)

右同人

明和九年三月九日

増補 改正播州大坂畫圖 一枚

柳原源治郎(京町堀一丁目)

富士屋長兵衛(高麗橋一丁目)

明和九年六月二日

西國略打順禮記 一冊

大文字屋宗然(周防町)

右同人

明和九年八月十一日

伊勢道中記 一冊

(右四種の道中記は以前「大道中記」と題し、合本にて賣來りしを此度板木買上げ各別本に仕立て板行いたしたき旨申出)

升屋彦太郎(木挽町北ノ町)

安永二年七月

北國筋道中記 一冊

(右四種の道中記は以前「大道中記」と題し、合本にて賣來りしを此度板木買上げ各別本に仕立て板行いたしたき旨申出)

右板元よりの申出でを本屋行司にて開届け板行

安永三年三月

西國筋道中記 一冊

(右四種の道中記は以前「大道中記」と題し、合本にて賣來りしを此度板木買上げ各別本に仕立て板行いたしたき旨申出)

大坂屋嘉助(孫左衛門町)

安永三年三月廿八日

奈良名所 一冊

出口與三左衛門(橋通七丁目)

吉文字屋市兵衛

安永三年三月

江戸道中記 折本

以前「東海道分間圖」と題せしものしうち第二十五、二十六丁の二丁、「江戸行程記」と題せしものしうち終り二丁以上を折本とし、改題板行申出

吉文字屋市兵衛

安永三年三月

日本國并江戸略圖

以前「細見記」と題せしものしうち第十四、十五、十六の三丁を抜摺とし、改題板行申出

吉文字屋市兵衛

安永三年三月

繪本浪花ななめ 五冊

陰山三郎兵衛(今橋二丁目)

大和屋彌兵衛(備後町五丁目)

安永五年八月

難波丸綱目 七冊

古板のうち所々彫替え板行いたしたき由申出

正木屋清兵衛 楠屋忠兵衛

安永五年九月

新日本輿地路程全圖 一枚

長久保源五兵衛(常州水戸)

司にて開届け板行

安永七年二月

刻日本輿地路程全圖 一枚

今村美景(船町)

藤屋彌兵衛(高麗橋一丁目)

安永七年二月

金毘羅參詣海陸記 一冊

長久保源五兵衛(常州水戸)

吉文字屋市兵衛(木挽町中之町)

安永七年二月